



# 桃太の女鬼胎児

日本の昔ばなし(おとなのおとぎ話)

登場者

主人公:桃太

村人:長老、武蔵、お春さん、お婆、名無し数名

鬼:赤女鬼、青女鬼

他:観音様



お前が生贄の男か？

んだ、おらが生贄になるから  
村人は襲わんでくれ！

むかしむかし、ある村の山奥に二匹の女鬼が住み着いた。乱暴な男鬼からこの地へ逃げて来た二匹の女鬼は、村人を餌として食い殺すと言う、それはそれは恐ろしい話があった。髪や眼、唇と爪が真つ赤な赤鬼と、同じく髪や眼、唇と爪が真つ青な青鬼の二匹の鬼達は、体が大きくて力もあり、村人達は全く齒が立たなかった。



裂ける〜  
ギヤ〜

助けて〜

ヒエ〜  
喰われる〜

女はどりあえずここに刺しておいて、  
あたかも美味しい男の方しよう〜

ぞ、そんな〜

ヤベ〜

武蔵さん  
待って〜

鬼が出た〜

女鬼達は俊敏に動く上に、蛇の様に長く伸びる舌で人間を絡み、  
着物を剥ぎ取ると、丸ごと村人を食べてしまった。  
特に男の肉が好きで、何人もの男が女鬼達に喰われてしまった。

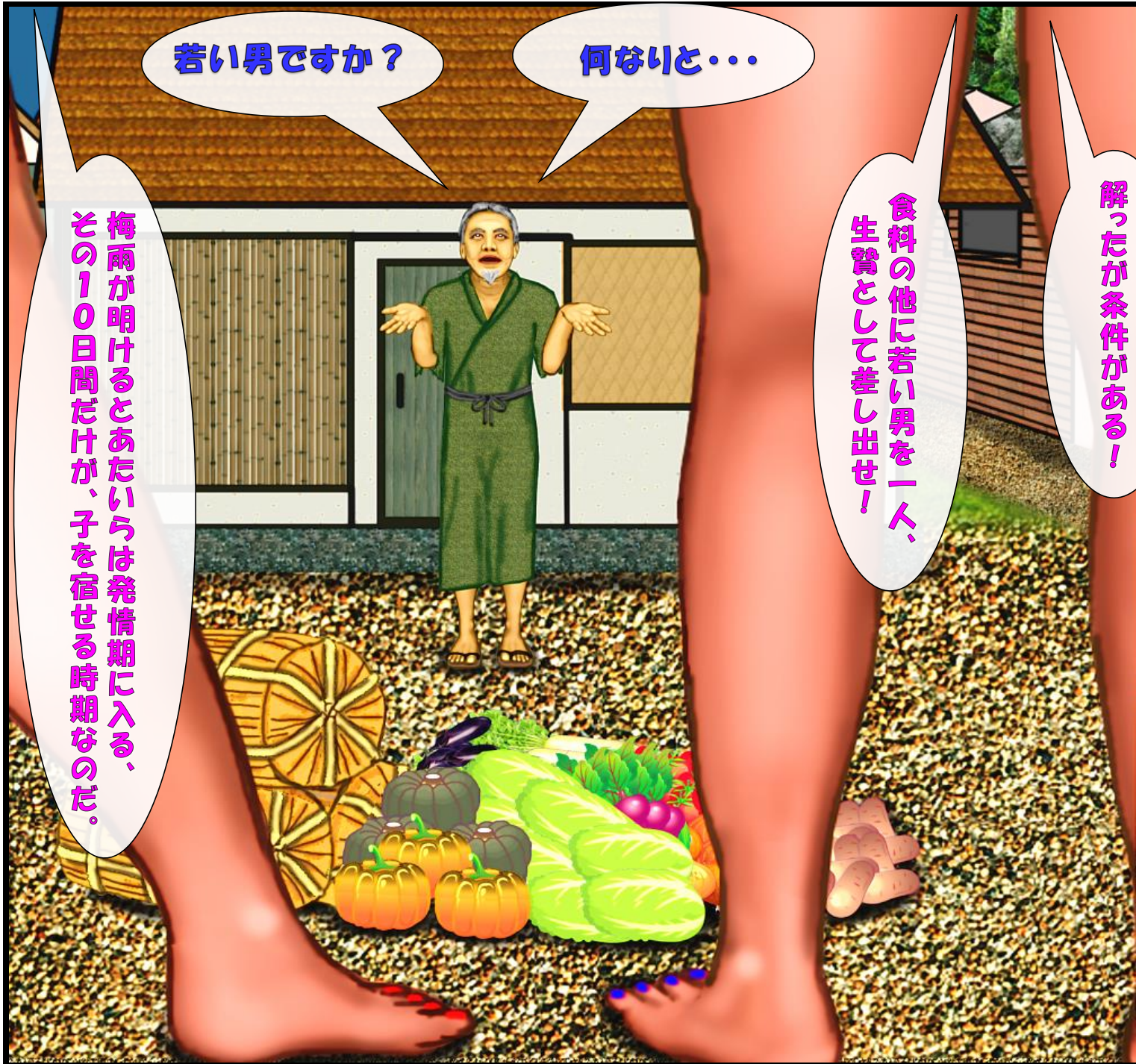


人間の生肉、特に男の肉は  
歯応えはあるし、味も濃くて  
好きだけだな～・・・

確かにそうだな～毎日一人  
づつ食べても、この村じゃ  
1年も持たないか！？

女鬼様、村人を殺さないでください！  
食べ物なら欲しいだけ渡しますじゃ・・・  
このままでは村人が居なくなってしまうます！

このままでは村人が女鬼達に喰われ、村が絶えてしまうため、  
村の長老が勇気を出して女鬼に掛け合った。  
食料を渡す代わりに、村人を食い殺すのは止めてくれと、  
女鬼に頼み込んだのだ。  
女鬼達もこのまま村人を食い殺し続けては、住人が居なくな  
ってしまう事は理解できるので、その話を了承した。



若い男ですか？

何なりと...

梅雨が明けるとあたいらは発情期に入る、その10日間だけが、子を宿せる時期なのだ。

食料の他に若い男を一入、生贄として差し出せ！

解ったが条件がある！

しかし女鬼達は、男の鬼が居ない中、もう直ぐ自分達に発情期が来て、子供を宿したいと言う、性的欲望が湧き出て来る事を予知していた。それで人間の男の精子を体内に取り込む目的で、一人の男を生贄として渡す事を、長老に要求した。



ああ、  
約束する！

そうだ、お前達人間でもマラが  
長ければ種付け出来ると思うから、  
マラが1尺以上あることが条件だ！

この位の長さは  
欲しいね～

そうすれば村人を食い殺す  
ことだけは止めて頂けるんですね！

子を宿す！？

しかし女鬼達は人間の3倍、約3間（5m）もの背丈があり、通常の人間では、女鬼達との交尾で受精する事は難しい。それが女鬼達が要求して来たのは、成人になつた男の中で陰茎が1尺（30cm）以上ある男を差し出さないとダメだと言う事だった。



それでもなんとか  
頑張ってくれ！

武蔵や、村を救えるのは  
お前しかおらんじゃ！

100日間が過ぎれば、  
無事に帰って来れるかも知れん

おらん怖えけど、  
村の為じゃ仕方ね〜か

しかしおらの男根でも、  
さても一尺には届かん！

村の男の中で一番背が高く、大きな男ですら  
陰茎の長さは6寸（18cm）程度しか無かったが、  
女鬼達の生贄は、その大きな体の武蔵が撰ばれた。  
武蔵は命が危うい生贄など、当然嫌だと思いつつも、  
長老に頼まれて、仕方なく女鬼の生贄となることを承諾した。



小さいじゃない！

ぞうか？  
ぎゃ〜元氣はいつ見らん！

あ〜！

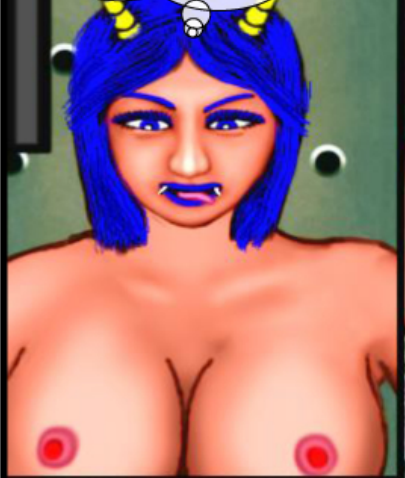
こんな小さいマブじき、  
子種が腹の中まで届かん！

い、いや、  
元氣に成れば…

女鬼達は生贄としてやって来た武蔵の陰茎の大きさを  
確かめようと考え、武蔵の着物を剥ぎ取り素っ裸にした。  
女鬼達は武蔵の体を掴んで陰茎を見て見たが、  
恐怖で萎えている武蔵の陰茎は、一尺所か半分の5寸も  
無い大きさだった。



人間のマラは旨いから、舐めても美味しいかな？



全然元気に成らない感じだね～



どうだ？  
あたいらの裸を見て興奮するか！？



す、すまんです。



あんなテカイマ○チョに入れても気持ちいい訳無いじゃん…



押し潰されそうで全然興奮しない。どうしよう…

女鬼達は男鬼との経験はあつたので、男が興奮する行動は知つていた。それからまずは虎革の衣を脱ぎ全裸に成つた。しかし武蔵は、これからは性交する相手は恐ろしい形相の鬼である上に、巨大なオツパイやお尻を見ても、押し潰されるかも知れないと言う恐怖心が沸かなくて、頭がすっぽり、女性器を見ても、女と散々遊んでいた武蔵には、慣れだつた。処女の様に締めようがない巨大なワグナは、逆になに武蔵には、萎えてしまつたのだ。入つてしまひそうない巨大なワグナは、逆になに武蔵には、萎えてしまつたのだ。



わ~なんだ  
そのペロは~...

じゃああたいは  
後ろを攻めて見るか...

仕方がない、  
マラを舐めて  
見るか!?

え? 舐めるって!?  
あの牙に刺され  
ちゃうんじゃ!?

次に女鬼は、以前に男鬼に強要されて行っていた尺八で、武蔵の陰茎を勃起させようと考えた。女鬼達は以前、男鬼の巨大な陰茎を嫌々舐めさせられていた。しかし今回は発情期に入ってしまった事や、人間の男の陰茎は食べると旨かったと言うこともあり、小さい体で自分達の好きな様に出来る、人間の男の陰茎を舐めて見たいと思った。



やっぱ男のマラは美味しい〜  
食べちゃいたいくらいだ..



止めるわけ  
無いだろう!



あれ〜?  
気持ちいい〜



ああ〜  
止めたくさ〜

女鬼は舌を長く伸ばし、武蔵の陰茎を巻き取り咥え込んだ。  
武蔵は散々女とは遊んでいたので、普段から女達に自分の陰茎を舐めさせて楽しんで付いてきたが、女鬼の舌は蛇の様に長く伸びて、武蔵の陰茎に絡み付いてきた。  
武蔵は楽しい所か、大事部分を千切り取られるのでは？  
と言ふ恐怖しめか、なかつたが、ヌルヌルとした舌に絡まれ、扱かれたり締め付けられ、次第に勃起してきた。  
遥かに気持ちよくて、女に舐められるより



そ、そこは〜  
ああ〜ん

ズブズブズブ〜



気持ちいい〜

ベロベロ  
ジュルジュル〜

え?!ケツの  
穴に何かが...



ううう〜  
止めてくれ〜

ジュルジュル〜

ポニ  
ポ



ベロベロ  
ジュルジュル〜

ズブ〜

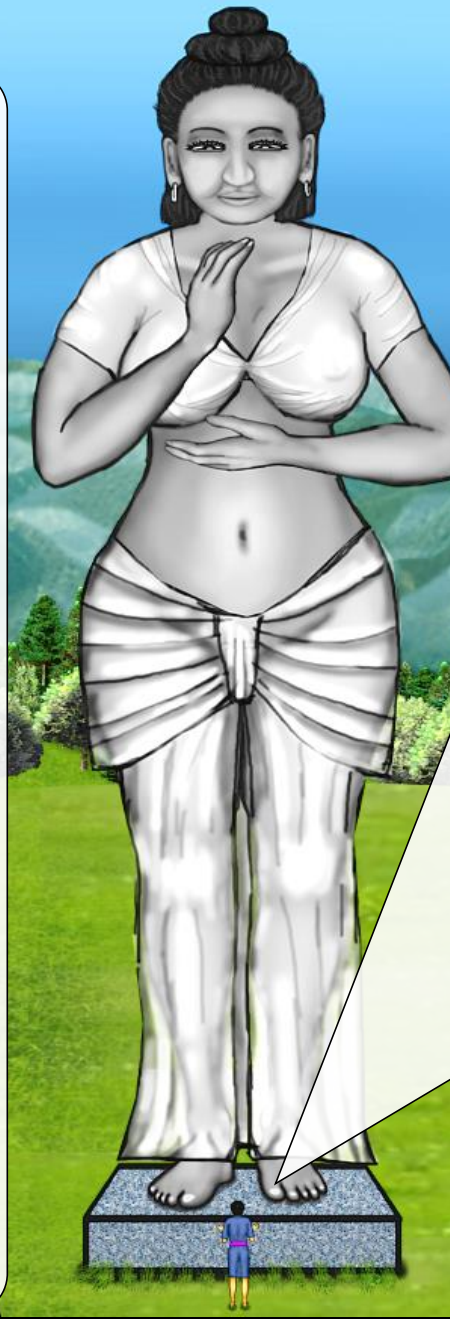
更にもう一匹の女鬼は武蔵の尻の穴に、武蔵の陰茎の上に  
長くて太い舌を突っ込んで、女鬼の尻の太い  
肛門を何かが入れられる経験した武蔵は、女鬼の  
舌で肛門を広げられ、柔らかい等無かつた武蔵が、お尻の  
深くに入っただけで、それより出て行くか、またした物が、持  
感じが、快感に  
変わった。直ぐに今まで経験した事も無い、快感に



女鬼は、口の中で男の陰茎が大きく硬くなって  
 行く事を察知し、更に強く吸い出した。  
 武蔵は女鬼達の肛門への刺激と絶品の尺八に  
 耐え切れなくなつて、青女鬼の口の射精してしまつた。  
 青女鬼は武蔵の生臭い精液を味わいながら飲み込んだ。

村の若い男の中で一番背が低く、二十歳になったばかりの桃太と言う男が居た。桃太はひ弱な感じで、女性経験も無い男だった。桃太は武蔵が女鬼に男根を取られてしまい、村に危機が迫っていること知って、自分が皆の為に何とかしたいと考え悩んでいた。程の高さの観音像の前で、女鬼の生贄になることを決意したのだ。桃太は体が小さく力も無い、皆から頼りにもさ無いので、村のためには大きな女鬼ではあるが、女と交わる目的の生贄なら、殺されるのもいいから女と性交して見たいと思っただのだ。

観音様、おいら小さいし力もねえ、皆から何も期待もされねえ、だからおなご(女子)からも相手にされねえ、だ！  
観音様見てーな、ふくよかで優しそうおなごと一緒に成りてーけど、どうせ無理だし、このままだと女を知らねえ、まま歳をとって行くか、あの女鬼達に喰われて死ぬのが落ちだ！



それで考えたんだけど、どうせ喰われ死ぬなら、今あの女鬼達は子を宿す相手の男を要求してるって言うし、まあ余力過ぎるし恐ろしい姿だけど、一応おなごだし、村の為にも、おいらが生贄になろうと思ってるだ。

